

中小企業地域資源  
活用促進法に基づく



**ふるさと名物**  
Furusato Meibutsu

わが市町村の  
ふるさと名物は  
**これ!**



**広島県福山市**  
が応援するふるさと名物

福山城築城400年を  
契機としたツーリズムと  
伝統の技を活かした商品群  
～福山の命名者 水野勝成により  
培われた文化と歴史～





ふるさと名物  
Furusato Meibutsu

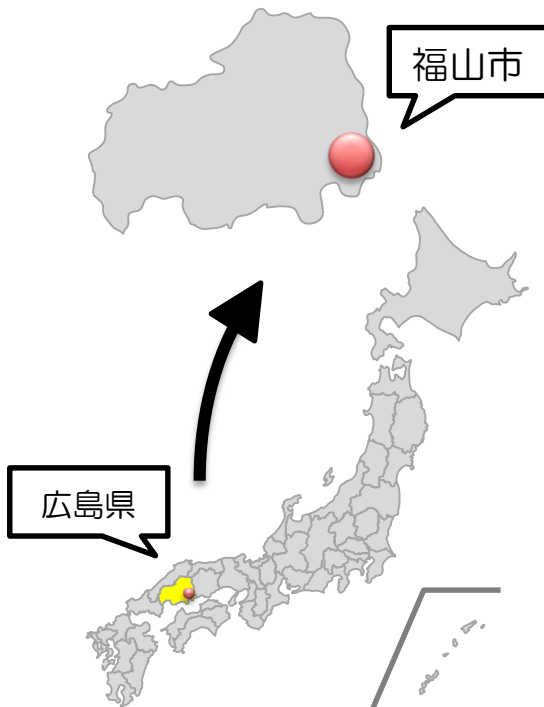
# 応援宣言

## 広島県福山市



市章

### 地域の プロフィール



福山市は、瀬戸内のほぼ中央、広島県東部に位置し、温暖な気候と豊かな自然に恵まれた人口約47万人、面積約518km<sup>2</sup>の都市です。JR山陽新幹線のぞみ号の停車や、高速道路のインターチェンジが3ヶ所あるなど交通アクセスが非常に良く、備後地域の中核都市として発展しています。

「福山」という地名は江戸時代に初代藩主である水野勝成により名づけられました。福山城のあるところは蝙蝠山（こうもりやま）と呼ばれ、古来中国では“蝙蝠”は“福”に通じるとされることから、この地を福山と名づけたと言われています。福山市の市章もコウモリがモチーフになっています。

ふるさと名物

福山城築城400年を契機としたツーリズムと伝統の技を活かした商品群  
～福山の命名者 水野勝成により培われた文化と歴史～



水野勝成画像（賢忠寺蔵）

福山市の文化や産業には福山藩主であった水野家により築かれたものが400年近く経た今でも色濃く残っています。

水野家によるレガシーは、わたしたち市民が誇りと愛着をもって次世代に伝えたい宝です。

活用する  
地域資源

## ◆水野勝成の足跡 福山城・鞆の浦・保命酒

初代福山藩主である水野勝成は1619年、鞆の浦に上陸し、そこを拠点に治所の適地を探しました。そして3年の歳月を経て福山城を築城しました。



福山城伏見櫓

“福山城”は徳川幕府の西国鎮衛の拠点として1622年に築城され、完成された近世城郭の名城として讃えられていました。

1945年8月の空襲によりその多くが焼失しましたが、1966年に市制施行50周年事業として復元され、天守は福山市のシンボルとなっています。また新幹線駅から一番近い天守として多くの観光客から親しまれています。

焼失をまぬがれ当時の姿を残す伏見櫓は、京都伏見城の「松の丸東やぐら」を徳川秀忠が移建させたものと言われ白壁三層の豪華な姿に桃山時代の気風が伺えます。

“鞆の浦”は潮待ちの港として古くから栄え、万葉集にも登場する名勝です。室町幕府初代将軍の足利尊氏は再起の拠点とし、室町幕府最後の将軍である足利義昭は織田信長に京都から追放され、鞆の浦に滞在しながら再起を図りました。また、いろは丸事件の際に坂本龍馬が滞在した宿舎も現存し、歴史と景観を楽しめる情緒あふれる町並みは多くの人を魅了しています。また“保命酒”は江戸時代、ペリーに振る舞われたとされる鞆名物の薬味酒です。



鞆の浦



保命酒

活用する  
地域資源

## ◆歴史を受け継ぐ産業 備後絣・備後表

水野家はこの地の風土をもとにした産業奨励として干拓事業と塩田開発を行いました。干拓地は稲作に不向きなため、綿花が栽培されたことで綿織物が盛んになり、後に備後絣の開発に繋がりました。備後絣で培った技は国内外のラグジュアリーブランドからも高く評価されるデニムや縫製品に受け継がれています。塩田開発では製塩に使う燃料の薪炭材料が必要となり、木材が大量に集まったことで、松永下駄などのはきものや木製家具の生産が発展しました。

また、い草の栽培促進により備後表の生産が活発になったことや、産業だけでなく武士や町人へ芸事も奨励したことが福山琴の生産に繋がっています。



備後絣

井桁模様が特徴の“備後絣”は1853年に開発されました。伊予絣、久留米絣と並ぶ日本三大絣の一つで、昭和30年代には年間300万反が生産され、日本最大の絣の産地として知られていました。現在は洋服や小物、雑貨にアレンジされています。



備後表

“備後表”は朝廷や幕府に献上された最上級品の畳表です。その歴史は古く、南北朝時代の書物にも記録が残っています。国宝や重要文化財には欠かせないものとして現在も扱われています。

# ふるさと名物の内容

活用する  
地域資源

## ◆歴史を受け継ぐ産業 デニム・縫製品・福山琴・はきもの・木製家具



デニム・縫製品

“デニム”はジーンズなどの生地のことです。福山市はデニム生産量が日本一で、染色・織布・洗い加工などの関連企業が集積しています。

備後絊で培った染めや織布の技術を活かしつつ、新たなデニム生地を提案し続け、その高品質な生地は国内外のラグジュアリーブランドでも多く活用されています。

また縫製品では、作業着の製造を主体とする企業群と、婦人・子供服の製造を主体とする企業群が形成され、どのような被服でもこなせる地域と称されています。

琴の生産は江戸時代初期に開始されました。生産量は日本一で、熟練の職人が生み出す“福山琴”の美しい音色と優美なさまは高く評価されています。



福山琴



はきもの

塩を煮詰める薪から生まれた松永下駄などの“はきもの”。木材集積によりキリなど高級材も流通し発達した“木製家具”。塩田が開発された松永には日本でも珍しい「はきもの資料館」があります。

活用する  
地域資源

## ◆地域に愛される名所 明王院・吉備津神社

水野家は神社仏閣の修理や再建に力をつくしました。明王院や吉備津神社を整備し、磐台寺を増築しました。また参勤交代では、筑前黒田家は常宿として神辺本陣を活用しました。これらの名所は今も住民に愛されています。



明王院

“明王院”は、空海が開基したと伝えられ、1619年、水野勝成が福山藩主として入封してからその庇護を受けました。本堂と五重塔は国宝に指定されています。五重塔の心柱は一層の天井で止まっており、全国的にも珍しい造りと言われています。



吉備津神社

「一宮（いっきゅう）さん」として親しまれている“吉備津神社”の本殿は水野勝成が1648年に造営した桁行七間・梁間四間の雄大な規模の建物です。この本殿と木造狛犬三体や毛抜形太刀四振りが国の重要文化財に指定されています。

活用する  
地域資源

## ◆地域に愛される名所 磐台寺・神辺本陣



磐台寺

“磐台寺観音堂（通称：阿伏兔観音）”は、岩壁に建つ姿が美しく、歌川広重の浮世絵の題材や志賀直哉の小説「暗夜行路」の中に紹介されるなど、著名な作品にもその魅力が記されており、国の重要文化財に指定されています。

磐台寺客殿は、桃山様式の代表的な禅宗方丈建築。欄間の意匠も優美で、県の重要文化財に指定されています。



神辺本陣

“神辺本陣”は江戸時代に参勤交代途中の大名が休泊した施設で、県の史跡及び重要文化財に指定されています。

現在、神辺本陣と呼ばれているものは西本陣で、筑前黒田家の常宿として活用されました。

黒塗りの土塀に囲まれ、重厚なたたずまいを見せています。



## 1

### ◆「福山城築城400年記念事業基本方針」を策定

福山城築城400年を契機として、先人の歩みや大切にしてきた思いを改めて振り返り、市民の心を一つにする契機とします。

さらに、福山城をはじめ、市全体の歴史・文化資源等の価値を再認識し、磨き上げ、その魅力を市内外に発信することで、「城があるまち福山」を市民全体の誇りとすることを目的に策定しています。この方針に基づき、事業を推進しています。

## 2

### ◆「福山城築城400年記念事業」 キャッチフレーズ、ロゴマークを制定

